

石渡文世氏所蔵文書

三浦市海外町

石渡家文書の調査については、後述する石井師士氏所蔵文書と調査経緯は同様であるが、昭和62年の調査後、県立文化資料館で寄託を受けていた文書である。平成5年、県立文化資料館の廃止、県立公文書館の誕生により当館で引き続き寄託を受け保存と調査研究に供させて頂いている史料である。今回、酸性紙から中性紙への保存袋の入替えと共に古文書のコンピュータ入力のために再調査し、新たに目録を作成したものである。当家の文書は、ほとんど虫損にかかっている。利用は困難であるため、現在はリーフキャストによる修復作業を実施している。石渡家文書の中には、同三浦郡中町岡村や東岡村の年貢割付状があり、また中町岡村と城ヶ島村それに三崎町の年貢皆済目録が数点含まれている。

ほとんど江戸時代の史料。

全史料、375点。 目録作成数、374タイトル（件）。

整理には、公文書館非常勤職員の飯島端治、鈴木巍也、平塚一実、保田晴男の四人の方が当たられた。

金田区有文書 区長、山森 實氏

三浦市南下浦町金田

江戸時代の金田村名主文書は数少ないが、延宝4年の金田村絵図や寛保3年松輪村との秣場出入りに関する文書など見るべき史料がある。延宝4年の金田村絵図（彩色）は、江戸時代の絵図として古い時代の史料に属し、神奈川県下に現存する中でも数少ないものの一つと考えられる。近代史料では、今日、野帳か切図かどちらか一方だけ伝来することが多い中で、明治8年「田畑其外反別取調野帳」（24冊）とこの野帳とセットになっている金田村切図（25鋪）とがいずれも一点も欠けることなく伝存している。翌9年の「田畑其他等級地価格取調簿」五冊も完全揃いで伝来している。

区有文書は、金田区では区長交替の時、次の区長に引き渡される。その際には、立会人捺印の上「金田所有財産目録」が新たに作成されて引き継がれている。

調査日、平成7年10月12日（事前調査）、11月22日、27日。

調査延べ人員、9名

調査点数、191点。 目録作成数、128タイトル（件）。

マイクロ撮影数、176点（2.950コマ）。

調査にあたり、現区長山森實氏、元区長山森義夫氏から懇切なる助力を頂いた。

菱沼 洋氏所蔵文書

三浦市南下浦町金田

当菱沼家は、江戸時代に相模国三浦郡金田村の名主を務め、(寛保3年に名主職) 明治期に入ると村用掛、戸長(明治13～18年)を務めた菱沼三郎兵衛家である。現在、表門に位置する樺作りで太い柱の大きな門は、名主役時代の様子を偲ぶ立派なものである。金田村名主文書は、一部区有文書として当村に引き継がれたが、残った文書も有ったようである。平成8年1月25日の探訪調査の時、当主洋氏と令夫人から伺った談によると、丁度今から7・8年前和紙に書かれた冊子ものや一通ものなどが筆筒の中に沢山あったが、鼠害や虫害がひどかったために処分してしまったとのことであった。現在所蔵されている文書は、故浜田勘太氏が研究のために借用されていた分で、明治時代菱沼氏が村の仕事に関わっていた時の日誌が主である。

当家の文書は、巷間に流失したこともあった。神奈川県立図書館が昭和30年代に購入した郷土資料の中に(受入れ登録:昭和36年10月12日・同37年7月27日、受入先:東京、木内書店)明らかに当家に所蔵されていたことを示す文書がある。現在は、県立図書館から県立文化資料館へ引き継がれたのち公文書館に移管され菱沼家文書として架蔵されている。点数は、18点。以下、参考のため資料名を紹介しておこう。

- 1、明治4年4月、社寺高反別書上帳
- 2、明治4年4月、上(海南明神領田畑位訳書上)
- 3、明治5年3月、御林御並木書上帳
- 4、明治5年11月、田畑直段金高控、増永書上帳
- 5、明治6年11月、寺院境内反別其外取調帳
- 6、明治6年11月 寺院境内反別木数取調書上帳
- 7、明治6年、 荒地起返し控帳
- 8、明治8年1月、上(村境字引橋道路修繕費用の依頼)
- 9、明治8～9年、金田村段別地価取調帳(明治15年写、朱楯円「要保存」・丸朱印「菱沼俊彦」、打ちつけ書き「菱沼大家」とある)
- 10、明治8年11月、村用掛内記(表紙に「菱沼大家」の朱楯円の印を捺す)
- 11、明治9年5月、御改正書上雛形(反別地価書上に付、布達)
- 12、明治11年10月、皇国地誌村誌(佐原村)
- 13、明治11～14年、雑書(精勤証書・住民出産表)
- 14、明治13年6月、建言書(国会開設の儀に付き建言)
- 15、明治15年2月、足観時勢(朱楯円「要保存」・丸朱印「菱沼俊彦」)
- 16、明治15年5月、金田村菱沼氏族籍(朱楯円「要保存」・丸朱印「菱沼俊彦」)
- 17、大正7年1月、南下浦村誌(1月21日～11月30日間の菱沼俊彦の日誌)
- 18、大正8年1月、南下浦村日誌(1月4日より、菱沼村長私記)

菱沼家の史料調査は、平成8年1月25日に2名で実施し、その後公文書館に於いてマイクロフィルム撮影を行った。

調査点数・目録作成数ともに82タイトル（件）。

マイクロ撮影数82タイトル（1.392コマ）。

石井師士氏所蔵文書

三浦市下浦町菊名

石井家文書の調査は、神奈川県史編集時に実施（昭和42年）され、以後、県立文化資料館が県史編集室の調査事業を引き継いだ中でアフターケアを含めて実施（昭和62年）した。そして、それぞれ調査・整理した所在目録を『第三集 神奈川県史資料所在目録』（県史編集室編）、『神奈川県古文書資料所在目録 第11集』（文化資料館編）として刊行した。それでも、この2冊の「所在目録」と本冊18集とを比較して分かるように整理が悉皆調査まで完成していなかった。そこで、文化資料館実施の調査が途中迄となっていたこともあり、三浦市内地域中でも最優先で悉皆調査・整理を実施した。全史料数が、『神奈川県史 別編2 資料所在目録』の記載数をはるかに越えるものであり、同じ項目に入れるべき史料も多いため、目録を新しく作りなおした。2冊の「所在目録」に記載された史料は、検索に不便とならないようにほぼ同じ分類項目に入れてある。江戸時代の古文書約230点は、932点（件）となった。当家の古文書の特徴は、明治期をも含めて漁業関係史料にあり、仕切書は江戸市中における交易を知る上では欠かせない史料であろう。また、江戸の出版元須原屋茂兵衛の名が見える史料もある。

調査日、平成7年12月1日～平成8年3月28日（現地調査、12月1日～平成8年1月31日、延べ16日間 借用整理、平成8年2月1日～2月23日、延べ14日間 マイクロ撮影、平成7年12月1日～平成8年3月28日）

調査延べ人員、152名

調査点数、3.214点。 目録作成数2.133タイトル（件）。

マイクロ撮影数、1.861点（14.614コマ）。

三浦市教育委員会所蔵文書

三浦市城山町

当教育委員会所蔵文書は、二群に分かれる。一つは、浜田勘太氏が収集した文書を氏の没後、遺族から当教育委員会に寄贈された古文書・浜田氏自身の調査メモ等資料で「浜田文庫」して一括整理されている一群。もう一つは、杉山隆一郎氏から寄贈された文書、以前から金庫に保管されている文書の一群である。

杉山隆一郎氏寄贈文書は、永禄年中旧三戸村（現在、三戸）福泉寺の中興開基で享保年間三戸村名主を務めた進藤権左衛門家に伝わった「相模国三浦郡三戸村五人組連判帳」1冊である。浜田勘太氏が郷土研究のために収集した文書には、伝来先の明確な原文書が含まれている。前田 浩家文書（三戸）、鈴木善重家文書（上宮田）、金子軍司家文書（金田）、長谷川平五郎家文書（金田）がそれである。また、浜田氏の調査メモは、現在このメモなくしては知ることの出来ない記載があり貴重な資料の一つとなっている。

調査日、平成7年11月1日、7日、8日、28日、29日、12月18日。

調査延べ人員、19名

調査点数、232点。目録作成数、232タイトル（件）。

マイクロ撮影数、232点（1,663コマ）

調査、撮影場所には、三浦市青少年会館長と文化財保護係長飯島重一氏のはからいで青少年会館の一室を使用することができた。

（収録文書所蔵者別解説は、田島光男が執筆した。）

神奈川県古文書資料所在目録

第 18 集

編集 神奈川県立公文書館
発行 神奈川県立公文書館
館長 後藤 仁
〒220 横浜市旭区中尾町8番地
☎ (045) 364-4456
FAX (045) 364-4459

発行日 平成 8 年 3 月 30 日

印刷所 内村印刷株式会社
〒231 横浜市中区末吉町1丁目12番地
☎ (045) 261-7961
FAX (045) 251-7704

